

学びのR

No. 41 (令和3年3月)
 埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/g2201/index.html>

「R」は「reform(改革)」の頭文字です

*** 「指導と評価の一体化」で授業改善⑭ *** ~ 「総合的な学習の時間 (小学校・中学校)」 編 ~

*今回は、「指導と評価の一体化」の実現に向けて、総合的な学習の時間の評価について解説します。

新学習指導要領(平成29年告示)の趣旨を実現するためには、学習評価の在り方が極めて重要であり、学習評価を真に意味のあるものにするためには、「指導と評価の一体化」がますます求められます。

評価のポイント

評価規準の作成の詳細な手順等は、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 総合的な学習の時間 小学校編・中学校編』(国立教育政策研究所)P27~をご参照ください。

- 3つに整理された評価の観点を踏まえながら「指導と評価の一体化」を推進することが必要。
- 各学校で育成したい資質・能力を見取る、適切な「指導と評価の計画」を作成することが大切。
- 「単元の評価規準」を作成する際には、実際の学習活動や学習場面をイメージし、資質・能力を発揮する具体的な児童生徒の姿を想定することが大切。

学習評価の進め方

『新学習指導要領に対応した学習評価(中学校 総合的な学習の時間) 独立行政法人教職員支援機構』P10・P11から引用しています。

単元の目標(例)

様々な発電方法を調査したり電力消費量を減らすために活動に取り組んだりすることを通して、自分たちの暮らしは環境に負荷を与えたり、限りある資源の消費の上で成り立っていることを理解するとともに、電力消費量を抑えるための実現可能な方法を探し求め、未来の豊かな暮らしを守るために行動できるようにする。

単元の目標は、以下の4つの要素を構造的に配列して作成する

- 『単元において中心となる「対象や活動」』
- 『単元において、重視する「知識及び技能」』
- 『単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」』
- 『単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」』

指導と評価の計画(例)

単元の評価規準に基づきながら、実際の単元計画において、「いつ」「どの場面で」「どのような方法で」「どの評価規準をもとに」児童生徒を見取るのか「指導と評価の計画」を作成することが考えられます。

小単元名(時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
1	(省略)		①		・発言	評	①エネルギーの問題について(中略)理解している。	①電気エネルギーを生み出すための発電について(中略)作成している。	①エネルギーに関する問題について(中略)新聞を作成しようとしている。			
					・計画書					②	②多様な発電方法について、その仕組みや特徴に関する情報を、幅広く効率的に収集している。	②太陽光発電が増えることのは是非について(中略)参考にしようとしている。
					・ワークシート							
2	(省略)		①		・新聞	価	②地域への節電の呼びかけを(中略)実施している。	③自分でできる節電方法について(中略)優先順位を決めている。	③アンケートの結果から(中略)働きかけようとしている。			
					・振り返りカード					②	④エネルギー問題と自分の生活との関係について(中略)気付いている。	④エネルギー問題の解決方法について(中略)自分の考えを主張している。
					・「私の節電ベスト3シート」							
3	(省略)		②		・節電企画シート	規	③エネルギー問題と自分の生活との関係について(中略)気付いている。	④エネルギー問題の解決方法について(中略)自分の考えを主張している。				
					・活動報告書					③		
					・主張文							

(省略)
 詳細は、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 総合的な学習の時間 国立教育政策研究所 P49、P50 を御参照ください。

評価規準の作成のポイント

『新学習指導要領に対応した学習評価（中学校 総合的な学習の時間）
独立行政法人教職員支援機構』P12～P14から引用しています。

「知識・技能」に関する評価規準（例）

- ① エネルギーの問題について、資源には限りがあることや発電方法のバランスが重要であること、生活や暮らしとのつながりが大切であることなどを理解している。
- ② 地域への節電の呼びかけを相手や場面に応じた適切さで実施している。
- ③ エネルギー問題と自分の生活との関係について探究し続けてきたことによって、自らの行為が未来社会に深く関わっていることに気付いている。

① 「概念的な知識の獲得」を児童・生徒の姿として見取る。

事実に関する知識を関連付けて構造化し、統合された概念的な知識を獲得している児童・生徒の姿を評価規準として設定することが考えられます。

② 「自在に活用することが可能な技能の獲得」を児童・生徒の姿として見取る。

技能が特定の場面や状況だけでなく、日常の様々な場面や状況で活用されているか、「いつも」「滑らかに」「安定して」「素早く」行われているか、などの児童・生徒の具体的な姿を評価規準として設定することが考えられます。

③ 「探究的な学習のよさの理解」を児童・生徒の姿として見取る。

資質、能力の変容を自覚すること、学習対象に対する認識が高まること、学習が生活とつながることなどを、探究的に学習してきたことと結び付けて理解している、などの児童・生徒の姿を評価規準として設定することが考えられます。

「思考・判断・表現」に関する評価規準（例）

- ① 電気エネルギーを生み出すための発電について、何をどのように調べるか見通しをもって活動計画書を作成している。
- ② 多様な発電方法について、その仕組みや特徴に関する情報を、幅広く効率的に収集している。
- ③ 自分でできる節電方法について、それぞれのメリット・デメリットを明らかにしたうえで、取り組むことの優先順位を決めている。
- ④ エネルギー問題の解決方法について、結論に対する根拠を明らかにして、自分の考えを主張している。

① 「課題の設定」の過程で育成される資質・能力を児童・生徒の姿として見取る。

例えば、「複雑な問題状況の中から課題を発見し設定する」「解決の方法や手順を考え、確かな見通しをもって計画を立てる」などの視点による設定が考えられます。

② 「情報の収集」の過程で育成される資質・能力を児童・生徒の姿として見取る。

例えば、「情報を効率的に収集する手段を選択する」「必要な情報を多様な方法で収集し、種類に合わせて蓄積する」などの視点による設定が考えられます。

③ 「整理・分析」の過程で育成される資質・能力を児童・生徒の姿として見取る。

例えば、「異なる情報の共通点や差異点を見付け、関係や傾向を明らかにする」「事象を比較したり関連付けたりして、確かな理由や根拠をもつ」などの視点による設定が考えられます。

④ 「まとめ・表現」の過程で育成される資質・能力を児童・生徒の姿として見取る。

例えば、「相手や目的に応じて効果的な表現をする」「学習を振り返り、自己の成長を自覚し、学習や生活に生かす」などの視点による設定が考えられます。

「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準（例）

- ① エネルギーに関する問題について、調べたことの中から伝えたいことを明確にして、新聞を作成しようとしている。
- ② 太陽光発電が増えることの是非について、異なる意見のよさや他者の考えの価値を受け入れ参考にしようとしている。
- ③ アンケートの結果から、これからの社会を視野に入れ、節電の取組を地域に継続的に働きかけようとしている。

① 自他を尊重する「自己理解・他者理解」を児童・生徒の姿として見取る。

例えば、「自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする」「異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとする」などの視点による設定が考えられます。

② 自ら取り組んだり力を合わせたりする「主体性・協働性」を児童・生徒の姿として見取る。

例えば、「自分の意思で目標に向かって課題の解決に取り組む」「自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に取り組む」などの視点による設定が考えられます。

③ 未来に向かって継続的に社会に関わろうとする「将来展望・社会参画」を児童・生徒の姿として見取る。

例えば、「自己の生き方を考え、夢や希望をもち続ける」「実社会や実生活の問題の解決に、自分のこととして取り組む」などの視点による設定が考えられます。

参考・引用

- ・ 新学習指導要領に対応した学習評価（中学校 総合的な学習の時間）
独立行政法人教職員支援機構
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 総合的な学習の時間 小学校編・中学校編
国立教育政策研究所

「学びのR」は
こちらからも
御覧いただけます！

